

私たちに大切なものを教えてくれた 一匹の子猫と

若い警察官と小田原消防本部の人たちのお話です。

「やさしい心…。」

私(サンジュネス店主勝俣)が、サンジュネスのキャラクター猫「ラッキー」のモデルになった、愛猫のツイてるトラ猫「ラッキー」との出会いの感動の実話です。若いおまわりさんと消防本部の人たちのお話です。



希望
一歩先 どんな良いことが
待っているかわからないよ。
明日かもしれない
今日かもしれない
十分後かもしれないよ。

By ko☆ichi

こんにちは。

サンジュネスの勝俣です。

この小冊子は、サンジュネスのキャラクター猫「ラッキー」が出来るまでと、本物の猫「ラッキー」との感動の出会いを冊子にしたものです。

強運を引き寄せる「ラッキー」の実話です♪

心温まる、若いおまわりさんと、
小田原消防本部の人たちとラッキーの物語です。

ぜひ、読んでみてください。

サンジュネス店主 勝俣エー

幸せの窓口「サンジュネス」

URL … <https://www.givegive.co.jp>

E-mail … joy@givegive.co.jp

電話 … 0465-47-4477

FAX … 0465-43-8916

「やさしい心」

～サンジュネスキャラクターネコ「ラッキー」との出会い～

私たちに大切なものを教えてくださった小田原署の若いおまわりさんと
小田原消防本部の方々のお話です。

今朝10月23日(2008年)の朝、自宅の前を歩いていると

「ニャオン。。。ニャオン。。。」

前日の夜から子ネコの泣き声は聞こえてはいたのですが
どこかの家がネコを飼い始めたのか？くらいにしか
思っていませんでした。

耳を澄ませてみると確かに

「ニャオン。ニャオン。」

どこから聞こえてくるのかわ
からないんです、道路の下
から？まさか…



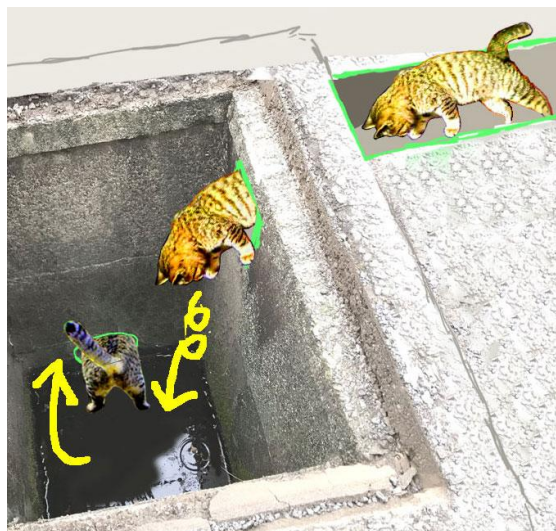
「ニャオン」

子ネコの泣き声です。泣いている声なんです。
「私を助けて！」ってうたっている声。
どこにいるかわからない。

すると、道路の排水溝の重い鉄の網を上げると
深さ1.5mほどの穴の側面に川に向かって直径
15センチ雨水溝がありました。
その穴の中から 子ネコの泣き声が聞
こえてくるのです。



私と娘が穴を覗いたり救出しようとしていると近所のおじいちゃん、おばあちゃん、ご主人、ご婦人が集まってきました。近所に住んでいるのだけど今まで、会話もしたこともない人たちが一つになって子ネコを救出しようとしていました。みんな必死でした。



子猫は、道路の側溝の小さな穴に入るところ雨水溝に落ちてしまったのです。子猫からしたら高く戻れなくて雨水溝の下にある小さな穴へ出口を探してさまよっていったしまったのです。

どうしていいかわからなくなってしまった私は、小田原警察に電話しました。

すると近所の交番に勤務する若いおまわりさんもかけつけてくれました。

一所懸命に救出にあたってくれました。必死に助けようとしている姿を見ていて警察官としての使命感がひしひしと伝わって来ました。

近所の旦那さんも寒いのに道路の向こう側の川に入って膝まで川に浸かって長いホースを川の側面から配水管の穴に入れて行き川に落ちないように子ネコを追い出そうともしてくれました。

このままでは子ネコを助けることはできないかも…。



消防署に電話しようとしたのですが、人命優先の消防署です。

一匹の子ネコのために来てくれるわけがないと思いましたが、子ネコの「助けて！」泣き叫ぶ声を聞いて、私と同じ命。ためらわずに子ネコを助けて欲しい一心で消防署に電話しました。



すると小田原消防本部の方々が救出に駆けつけてくれました。

子ネコは、助けを求めて泣き叫んでいます。子ネコは暗渠（あんきょ）配水管をちょうど道路中央の真下あたりまで移動してしまったようです。消防隊の人が道路の真ん中にあるマンホールを開けて命綱を体につけて下りて行きました。

えっ？ 命綱をつけるほど？

と思ってマンホールの中を覗いてみると路面から20mくらいも深くてその底は嵐の日の川のようにもの凄い勢いで下水が流れていました。



もし、底へ落ちてしまったら消防隊員ですら助からない！

この小さな野良ネコを助けるために、消防隊の人は命がけでした。

隊長をはじめみなさん真剣でした。
どうにか助けようと…。



大声を掛け合いながら怒鳴りあうように必死になって救出しようとしていました。消防隊員の救出する様子を見ていた私は感動で胸がジーンとしていました。

子ネコが、そのマンホールの穴へ落ちてしまったらおしまいです。

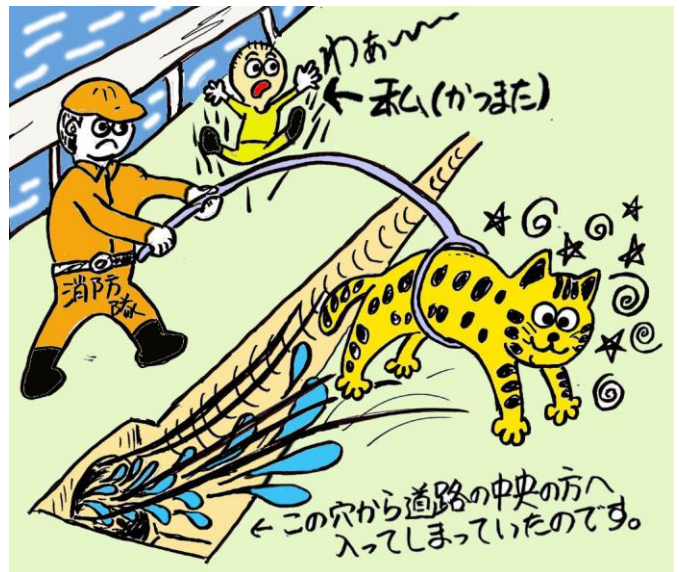
別の消防隊の人は 川に入って配水管の出口から水圧でネコを押出そうと試みました。

少しずつ水力をあげていき子ネコが押出されて救出されました。

その瞬間！

みんなが感動の歓声をあげました。

感動です！感動！



近所のおばあちゃんは

「子ネコの命を守るために 消防署の人たちがここまで一所懸命になってる姿がとっても感動しました。こうした心が、まだまだたくさんの人の中に眠っているのじゃないかな。」と言ってました。通りすがりの高校生たちも消防署の人たちの活動に感動していました。



心のやさしい人たちの思いが小さな子ネコの命を助けたのですね。

発見から救出までの2時間の感動のドラマでした。

この子ネコの「生きる」ことへの執念が

近所の人たち、警察官、消防隊の人たちの心を動かしたのかもしれない。

救出されて間もない猫
2008年10月23日

そしてなによりもこの人たちのやさしい心があったからこの子ネコは助かったのです。

(↑↑ここまで 2008 年 10 月 23 日のメルマガ)

子ネコのその後がどうなったのか
たくさんの方から問合せがありましたので
ご報告しますね。

ノラネコだったので、市役所が引き取りに来ることになったのですが、
最悪の場合処分ということらしいのです。



救出されて間もない猫
2008 年 10 月 23 日

ここまで、警察官、消防署の方々が命がけで助けてくれた小さな命。。。

隊長さんからこの子ネコを受け取った私は

「ありがとうございます。命がけで助けてくれて。

この思いを忘れずに責任もってこの子を育てさせていただきます。」



と約束させていただきました。

あの時の若いおまわりさん、

そして小田原消防本部の方々

近所のおじさん、おばさんたちとても大切な何かを教えていただきました。

ありがとうございました。

名前は「ラッキー」とつけさせていただきました。

このネコちゃんをモデルにして私が描いている
のが「ポイポイラッキー！」です(^^)v

